

もしも、健康保険が なかったら どうなるん?



日本の健康保険制度は世界最高の医療保険システムです。いま高齢化や医療の高度化で医療費が増大し保険財政が悪化、制度崩壊の危機にさらされています。「もしも健康保険がなかったら…」。考えてみましょう。

“だれでもどこでも”〈フリーアクセス〉の原則が崩れる

いま、健康保険証を持参すれば、だれでも、どの医療機関でも、均質で適切な医療を受けることができます。けれども、**健康保険制度がなかったら、このフリーアクセスの原則が崩れます**。医療機関を選ぶのに制限されてしまい、受診さえできない極端なケースも起こるでしょう。



受診のたびに多額の費用を心配しなければならない

健康保険制度のもとでは、医療機関を受診したときや医師の処方せんに
よって薬局で薬をもらうとき、基本的には、かかった医療費の3割を支払い、
残りの7割を健保組合などの保険者が負担する仕組みになっています。
**健康保険がなかったら、からだの急な変調のときの受診、生活習慣病での
たび重なる受診、入院で費用がいるとき、高度な医療や高額な薬剤が必要
になったとき…その都度、全額自己負担になります。**
こんなとき、健康保険があるから安心して受療できるのです。



● 受診者1人あたり1ヵ月の医療費負担〈例〉

	疾病例	3割負担	➡	全額負担
外 来	脂質異常症	1,306円	➡	4,353円
	高血圧症	2,346円	➡	7,820円
入 院	急性気管支炎	28,016円	➡	93,388円
	狭心症	70,993円	➡	236,644円

(健保連調べ)